

「アガベ」(題字・伊藤博胤)

 日本社会事業大学
Japan College of Social Work

アガベ

日本社会事業大学同窓会北海道支部【(2016年5月2日発行 第15号)】

(事務局・仁木町大江2-457大江学園内 0135-32-3662)

【特別寄稿】

社大の8年間を基礎に、次のステージに！

日本社会事業大学学生支援課 畑戸 健太郎

このたび、一身上の都合により、社大を離れることとなりました。

まずは、同窓会北海道支部のみなさまに御礼と感謝の気持ちを伝えたいと思います。本当にありがとうございました。

顧みると、日本社会事業大学にお世話になり、いつの間にか8年の月日が流れました。本当にあっという間の8年間でした。とはいうものの、ここでは書けないほどのいろいろな出来事がありました。

私にとって社大は、間違いもなく第二の母校です。40歳を過ぎた私を採用していただき、大変お世話になりました。大学に対しても感謝の気持ちで一杯です。

私立大学は今後、ますます厳しい経営状況となるでしょう。ただ社大の場合、教育・研究の内容がはっきりとしているということからも、何をやっているかわからない私立大学に比べれば経営的には大丈夫だと思います。

というか、そう思いたいです。

私が社大を知ったのは、大学生の時でした。法人本部が社大と同じ渋谷区にある私立大学に通学していて、変わった名前の大学だなあ、という程度の印象でした。まさか自分が何年か後に勤めることになろうとは、その時には夢にも思いませんでした。

その後、社大と私とは、もっと以前から縁があったことを、実父の話で初めて知り驚きました。それは、私の祖父母が牛込神楽坂で「畑戸商店」という雑貨屋を営んでいた時分に、アルバイトに来ていた学生が、何と社大生だったというのです。それを知り、社大の職員の方々等に祖父母の雑貨屋でアルバイトをしていた学生の名前を探していただきました。しかしながら残念なことに、今もなお不明です。大変真面目な学生さんで、経理の仕事や、店の品物の管理までやってくれていたとのことでした。

同じ釜の飯食らいながら、共に一生懸命働いてくれたそうです。私は今更ながら、

不思議なご縁を感じています。その後5年間ほど、人を違えても社大生のアルバイトは続いたそうです。いずれも大変優秀な学生さんだったとのことでした。

私も社大職員として8年間ご奉公をさせていただきました。勝手な自分の思い込みではあるものの、ご恩は返せたのかなと、自己満足しております。

入職してすぐに、教育後援会の立ち上げや生涯学習に係る仕事を経験しました。その後、校友室に異動となり、同窓会や教育後援会および社大社会福祉学会の事務局の仕事を経験しました。その中でも、特に良い経験となり、私の宝として残っているものは、自分の母校よりも深いお付き合いをしていただいた社大同窓会のみなさま方でした。卒業生でもない私と、まるで卒業生のようにお付き合いをしていただきました。北海道同窓会の方々はもちろんのこと、熊本県や福島県の同窓会のみなさまには本当にお世話になりました。

やはり、大学職員が地元まで足を運んで各支部の同窓会の方々と親交を深めることは、大変重要であると思います。そのようなお付き合いを通じてこそ、同窓会と大学は強い絆で結ばれることとなり、そういう共通の認識を持って共に進むことで、大学はますます発展していくのではないかと実感しています。これは、社大の最重要課題ではないかと捉えています。

また、退職前の9ヶ月間は今まで経験したことがない学生に係る学生支援の仕事ができました。大学職員となって初めての経験で今も戸惑っております。しかし、本当に貴重な経験をさせていただきました。

このように8年間を振り返ってみると、前の職場以上に様々な経験ができたと感じています。社大及び同窓会のみなさまには大変感謝しております。

新しい職場に行っても、これまでの経験は決して無駄なものではなく、むしろこれらを基礎にまた新しい経験ができるものと確信しています。

最後となりましたが、改めて同窓会北海道支部のみなさま、本当にお世話になりました。そして、これからもこの繋がりを是非保ち続けたいと考えておりますので、何とぞよろしく申し上げます。

【社会福祉随想!ルー】

社会福祉法人厚生協会の職員採用の取組と課題 その3

社会福祉法人厚生会 儀藤 敦 (学部25期)

第3回目となる今回は、2010（H22）年度以降の具体的な職員採用の取り組みを中心に報告します。



1. この6年間の職員採用に向けた取り組み

(1) 法人本部制度の導入

2010（H22）年4月に法人本部制度が導入され、私が法人本部庶務課長となって職員採用の窓口になりました。当初は手探り状態で職員採用に取り組んでいまし

たが、次第に次の5点が重要であると考えようになりました。

① 採用スケジュールの明確化

従来は次年度の職員採用について曖昧な点が多く、体系化されたとは言えない状況でした。過去10年を遡っても毎年数名は介護職求人をしていました。そこで、年度当初段階で採用試験の日程を秋口に設定すると共に、6月初旬におおよその採用予定者数を記載した募集要綱を各学校に送付するようにしました。

これにより採用活動を3～4月早めることが出来ました。

② 合同企業面接会等への積極的な参加

窓口がはっきりしたことで、従来はどちらかといえば受け身であった職員募集から、合同企業面接会等への積極的な参加（官民間問わず無料の合同企業面接会や大学主催を含め今年度は16件）が可能になりました。

③ 大学内での単独企業説明会の開催

募集要綱を送付するだけでなく、札幌や旭川方面の学校に挨拶を兼ね直接持参するようにしました。札幌市内の大学で学内合同企業説明会への参加をお願いしたところ空きがないと断られ、そのかわり単独企業説明会開催を勧められました。

現在では札幌方面の文系のある9大学で定期的を開催しています。1回当たりの参加学生は少ない（1～3名が多く、参加者0人の時も）ものの、1コマ90分と時間的にも充分であり、結果的には説明会参加学生の採用確率が一番高くなっています。

ただし、現状では公立大学や札幌方面以外の大学では開催が困難な状況です。

④ 職員住宅の建設

新得町の助成金を受け、法人として2012（H24）年度（単身用16戸・世帯用2戸）、2014（H26）年度（単身用4戸）、2015（H27）年度（単身用8戸）に職員住宅を建設しています。

地方の法人にとって都市部の法人とのイコールフットィング（特に介護職は女性の採用数が多い）として、安くて清潔で安心して住むことの出来る住宅の確保は必須と考えています。

⑤ 早期離職防止への取り組み

私が学生に関わる場合に大切にしている想いの一つです。

ここ数年、法人として必要な新卒者をようやく確保できてきているものの、「10人採用して1年過ぎたら、誰も残っていなかった」というような結果にだけはしたくはありません。採用に関わった職員が短期間で退職することは非常に辛いものです。特に新卒者の多くが初めて社会人としてのスタートを切ることになるため、採用する側としても就職する側としても、なおさらのことです。

嘘や極端な誇張といった無責任な表現をし、人を欺してまで採用数を満たそうとは思っていません。介護職であれば、「3Kや低賃金」ではないことを明確にしつつ、やり甲斐や魅力といったことを中心に真摯な態度で関わるように努めてきました。

今後は、「採用から育成」という流れを更に整理し、早期離職防止ばかりではなく、人材育成のシステム構築が大きな課題であると思っています。

2. 採用委員会の設置

2014（H26）年の秋口に、以前より新得町と協議を進めてきた既存特養の在り方について、併設施設として2016（H28）年4月に、定員20名の地域密着型特別養護老人ホームを創設する方向がまとまりました。この新施設がオープンすると介護職として最低10人と通常の欠員補充を含め同年3月卒業予定者15名の確保が求められることになりました。

この時点で、以前にも提案したことのある採用に関する委員会組織設置を再提案し、2015（H27）年4月より職員採用委員会としてスタートしました。上部組織として理事長をトップとする本委員会、その下に施設長をトップに各施設で新職員受け入れの窓口となる課長及び係長クラスの職員で構成する作業委員会があります。親組織で決定した大枠に基づき作業委員会が行動するという形態であり、私は事務局として参加しています。

この委員会に私が求めていたのは、危機感の共有です。過去の成功体験に囚われるのではなく、トップから現場の担当者までが現状を認識し、危機感を共有しながら採用活動に法人全体として取り組む環境を整備することです。更に委員会活動が機能すれば採用から育成まで一貫したシステムが構築でき、人材育成の大きな柱になるのではとの期待もありました。

初年度の活動として、マイナビを活用することになりました。職員採用に100万円を超える資金を投入することに異論もありました。しかし、大量採用のためには必要！と訴え、了解を得ました。他にも、職員採用パンフや法人名を記載したクリアファイルを作成し、各種イベントの際に活用しています。またイベントの際には私一人ではなく委員も同席し、実際の採用活動を体験してもらう機会も増えました。

結果として、目標にしていた15名の新卒者採用には1名足りません。しかし、本年4月1日から、14名の新卒者を介護職員として採用することが出来ました。

内訳は4大卒10名、短大・専門学校卒3名、高卒1名です。出身地別では、十勝管内出身者6名（うち新得町出身者1名）、札幌市など管外出身が8名です。出身校の所在地別では、十勝管内4名（帯広3名、新得町1名）、管外10名（道央圏8名、道北圏2名）となっています。

大卒採用者との最初の接点でみると、学内合同説明会が2名、学内単独説明会が4名、法人主催の説明会が1名、マイナビイベントが1名、学校経由が2名になります。

やはり、大学のキャリア支援課との接触を維持し採用活動を行うこと、特に当法人の場合では、学内単独説明会の開催が一番効果のあるイベントであることが明確になりました。マイナビ経由は1名だけです。しかし、エントリー社は130名を超えており、周知効果やブランド効果も含め登録する価値は高いと考えています。

さて、今回は最終回として、私がこれまで職員採用に関わってきた中で得られたこと、また今後の採用活動で重視すべきポイントについて報告させていただきます。

引き続きご愛読をお願いします。

就活・北海道フェアの開催について

前号でもお知らせしたとおり、6月25-26日(土・日)に社大校内において、標記を試みるべく準備中です。今年度は、本学及び本学同窓会の協力を得て、北海道同窓会としての単独開催とします。ただしこの事業は、3～5年単位を考えており、今年度の総括を行ったのち、来年度以降はできれば他県とのコラボを考えていきます。

今回のフェアは、儀藤さんの上記報告にもあるように、現在の社会福祉の現状(政策、教育、現場等)を踏まえ、「採用から育成」を一貫してできる北海道の社会福祉現場をそれぞれの法人・事業所でめざすことを目的としています。また、公務員職場への受験も促していきたいと考えています。したがって、①北海道出身者だけではなく、道外の多くの学生に北海道を意識してもらおうとともに、②社大生のみならず、関東圏の社会福祉系の多くの学生に北海道の社会福祉現場で働いてもらうことを強力にアピールする狙いがあります。

ついては、道同窓会のみなさんに、以下のことをお願いしますので、全幅的なご協力をよろしくお願いします。

1. あなたが勤める社会福祉法人及び事業所(以下、法人等)及びあなたが関わっている法人等の求人票を集約してください。
2. あなたが依頼できる知り合いの法人等の求人票を集約してください。
3. あなたが関わっている公務員職場(行政、学校等を問わず)の求人票を集約してください。
* これらは、**5月20日(金)までに**、各1部を、高田宛に送付してください。
4. あなたが勤める法人等のパンフ等(職場パンフ等のほか、お土産として渡せるようなグッズなど)を集約してください。
* これらは、**6月10日(金)までに**、30部以上を、社大校友室あてに直接送付してください。
5. 開催当日は、村上会長、木村副会長、瀬戸幹事及び高田幹事が参加予定です。
あなたの法人等を直接アピールしたい方、つまり当日参加できる方は、高田宛にお知らせください。

今回は初の試みであるため、どの程度の効果及び結果が得られるかは正直、不明です。しかし初回ゆえに、多くの資料(求人票、パンフ、その他資料)がないことには、学生たちに強烈にアピールすることはできません。同窓会員のみなさんの特段のご協力を何とぞよろしくお願いします!

* 送付先は、以下のとおりです。

- ・ 〒204-8555 清瀬市竹丘3-1-30 日本社会事業大学校友室 御中
- ・ 〒047-0151 小樽市朝里2-8-22 塩梅屋 高田宛

秋季セミナー（社大市民公開セミナー）の準備進む…

と き：2016年10月22日（土）14：00～23日（日）13：00

*** 29-30日ではなく、1週間早くなりました！**

ところ：釧路ロイヤルイン11F会議室&山花温泉リフレを予定

テーマ：子ども・子育て支援法と子ども福祉を考える

* セミナーの予定タイムテーブル

- | | | |
|----------|-------|----------------------|
| 10/22（土） | 13：30 | 受付開始 |
| | 14：00 | 市民公開セミナー開始 |
| | | ・ 会長挨拶、来賓ご祝辞 |
| | 14：10 | 基調講演（金子恵美社大教授） |
| | 15：10 | シンポジウム開始 |
| | 17：00 | セミナー終了 |
| | | ・ 移動（山花温泉送迎バス） |
| | 17：50 | 懇親会会場到着 |
| | | ・ 部屋割り、入浴など |
| | 18：30 | 懇親会開始 |
| | | ・ 宿泊 |
| 10/23（日） | 09：00 | ホテル出発 |
| | | ・ 施設見学？ 観光？ 体験？等を準備中 |
| | 11：45 | 昼食会 |
| | 13：00 | 解散 |



* 各交通機関の利用について

- ① JR北海道 往＝スーパーおおぞら3号（札幌発8：51→釧路着13：14）
復＝スーパーおおぞら8号（釧路発13：34→札幌着17：44）
- ② HAC 往＝563便（丘珠発11：25→釧路着12：10）
復＝568便（釧路発16：10→丘珠着17：00）
- ③ 道東自動車道が今年3月、釧路まで開通しました。

（以上、担当＝道北ブロック幹事・豊島さん）

*** 倉田先生が新刊を上梓 ***

小樽市在住の倉田先生（元社大教員、元小樽商大教授）が、以下の2冊の本を出版されました。新春セミナーの際に、道同窓会には各1冊ずつ寄贈して下さっています。

* 『マルクス主義』&『ヨーロッパ社会思想 小樽』（ともに、成文社版）
興味のある方は直接、先生までご連絡ください。お願ひくださるそうです。

* 倉田 稔 氏（0134-25-2109、小樽市住吉町3-1202）